

Just Now

意欲的に英語で コミュニケーションする 姿をめざして —小中一貫教育を見据えた 英語教育のあり方—

高見美智子 Takami Michiko
(岐阜県大垣市立小野小学校)

I 小中一貫教育の取り組み

大垣市では、中学校区を1つのブロックとしてそこへ進学するいくつかの小学校教師と中学校教師がお互いの学校を兼務し、T-Tで授業を行う小中一貫教育を行っている。英語についても3年前から小野小と英語教育先進校である中川小、それぞれの小学校から進学する星和中学校の3校で英語教育を9年間のスパンでとらえ、共同で研究をしている。今年度の研究内容は次のようである。

研究内容 I 英語学習におけるつけたい力の明確化とその手立ての工夫

研究内容 II 小学校の英語活動の題材指導計画の工夫・改善

研究内容 III 学ぶ楽しさを味わうことのできる中学校の言語活動の工夫

実際には、小学校の英語活動で身につけた力を基盤にして、指導内容や学習過程を工夫した中学校の英語学習を展開することにより、英語でのコミュニケーション能力の育成をより効果的に図ることができると考え、さまざまな工夫をして取り組んでいる。

II 2つの小学校での取り組み

中川小学校は平成8年度から全学年年間35時間英語活動に取り組み、現在も英語活動の研究推進に力を入れている。小野小学校は今年度から全学年年間35時間の取り組みが始まったところであり、おのずと指導内容は異なってくる。

しかし、英語活動から中学校の英語科へスムーズにつながるためにも、他教科や他領域と関連させつつ、なるべく同じような題材や場面、言語材料を扱いたいと

考え、題材の開発を行っている。

小野小6年「世界旅行に出かけよう!」では、中川小4年「世界旅行をしよう」と中川小5年「旅に出かけよう」の内容を、小野小6年生の実態に合うように組み合わせで題材指導計画を作成し、実施した。総合的な学習の時間と関連させ、興味・関心のある国について有名な建物や食べものなどを調べ、世界旅行のコースを作る活動を取り入れた。自分が作成した旅行コースのパンフレットを使って活動することで、意欲的に取り組んだ。

また、日常生活に関連した題材「どうしたの?」は、どちらの小学校も6年生で3時間扱いとした。中川小はコミカルで楽しい「おち」のあるスキット制作という知的好奇心を満足させる言語活動を出口の活動として出口の活動とした。小野小では具合の悪い人を保健室や職員室などに連れて行き、薬を渡すゲーム活動を出口の活動とした。経験年数の違いから活動内容は異なるが、言語材料や使用するピクチャーカードは同じものを使用した。



Ⅲ 中学校の取り組み

週1回学級担任がT1、ALTがT2で行う中川小の英語活動の授業にT3として入る中学校の兼務教師は、小学校の英語指導の成果やよさを次のようにまとめた。

- ・英語でコミュニケーションすることを楽しんだ経験がある。
- ・コミュニケーションの基本姿勢を小学校で身につけている。
- ・語彙や会話表現など言語活動に用いる表現を知っている。
- ・リズムによってテンポよく英語を言ったり、手話やふりをつけながら歌ったりした経験がある。
- ・繰り返し練習し、語彙や会話表現を定着させた上で、言語活動を行っている。
- ・視覚的な教材教具を用いるなど、理解を容易にするための手だてが充実している。

小学校の基本的な学習過程と中学校の学習過程を関連付け、以下の表のように整理し、小学校のよさやつながり意識して授業内容を工夫した。

星和中2年「Let's talk 2体の具合はどう？」では、教師のスキットを見て、課題『体の具合が悪くなった場面のスキットを作ろう』をつかみ、ペアでスキット制作を行った。小学校の英語活動での既習

表現は、簡単な発音確認にとどめ、未習表現 (Does it hurt much? My hand hurts. Take care of yourself. It's kind of you.) の使い方や発音練習を重点的に行った。従来の新出単語や新出表現の練習に費やす時間を削減でき、その時間をスキット制作にまわすことができた。生徒は、小学校の既習表現や活動を思い出しながら、意欲的に楽しくスキット制作に取り組み、発表し合うことができた。

小学校の英語活動では、コミュニケーションの基本となる観点 (Good listener, Eye contact, Clear voice, Nice smile, Big gesture, Active, Anybody, Good idea, Application, Helpfulness, etc.) を、絵カードを使って示し、それをもとに振り返りの時間に自己評価や相互評価をしている。できるだけ英語を用いて自分の気持ちを伝えたり、仲間のよさを認め合ったりしている。中学校での対話活動でも、小学校のコミュニケーションに関わる観点をもとに、同じ絵カードを使って基本的な項目に response を加え、意識して取り組ませることで、積極的にコミュニケーションする態度の育成を図っている。

中学校の英語教師がこのように小学校の英語活動を知ることで、小学校でのコミュニケーションにおける意欲・態度への指導の実情や児童の実態を把握し、中学校でも継続的な指導を続けることができ、さらにコミュニケーション能力を高めていくことができると考えている。Let's enjoy English!

〈小学校の学習過程を生かした星和中中学校での学習過程の工夫と実際〉

| 小学校 | 中学校 | |
|--|--|------------------------|
| 【導入】 Let's sing a song Today's topic Today's aim | 【授業の warm-up の持ち方】 ・ALTやJTE1、JTE2自身に関わる話題、世の中に関わる出来事や思いを絡めて話す ・単元を貫く言語材料をもとにペアで自分自身に関わる話をする ・仲間の話を聞く ・歌を歌う | ←単元や学期の中で見通しを持った活動をする。 |
| 【展開】 Let's chants Let's try | 【Oral Interactive Introduction】 ・ALTやJTE1、JTE2の説明や対話などから、本時の課題をつかむ | ←願いの持てる活動が設定できるようにする。 |
| 【終末】 Today's treasure | 【コミュニケーション的な授業展開】 ・ゲーム ・小学校での既習表現を取り入れたスキット作り ・コース選択による少人数指導 ・リズムによって単語の発音、text reading | ←繰り返し楽しく練習する場を設定する。 |
| | ・教科書の内容理解 ・言語材料 (文法事項など) 単元を貫く言語活動を仕組む | |
| | 【英語による相互評価、自己評価】 ・抽出ペアの表現に対して ・ペアとの活動について ・ALTやJTEからのコメント | |